

趣味のひとつ オールディーズ

- 第1巻 日本で流行ったあの歌、この歌
- 第2巻 ポップグループ時代の幕開け
- 第3巻 アメリカのフォークソング
- 第4巻 ポップグループあれこれ
- 第5巻 懐かしのソロ歌手
- 第6巻 キラリと光る一発屋
- 第7巻 日本のフォークソングとグループサウンズ
- 第8巻 ソウルミュージック
- 第9巻 スクリーン・ミュージック
- 第10巻 曲名で振り返るオールディーズ
- 第11巻 これでおしまいオールディーズ

第1巻 日本で流行ったあの歌、この歌

“老いたる者には、過ぎにし青春の郷愁を、若人には呼びて再び帰来ぬ、いにしへの幻を…” ナツメロ番組で良く聞くセリフですが、私の趣味は「オールディーズ」です。その魅力に魅せられてもう半世紀になりました。オールディーズにまつわる思い出を書きましたので、ご同輩に懐かしんで頂けたら幸いです。

2020年に東京で再びオリンピックが開かれます。人生で二度も東京オリンピックが観られるとは、こんな素晴らしいことはありません。1964年のオリンピック当時は東海道新幹線（夢の超特急）が開通し、オリンピックを観る為に白黒テレビをカラーテレビに買い換えたご家庭も多かったのではないのでしょうか。しかし、お茶の間ではラジオがまだ健在で、流行歌はもっぱらラジオで聞きました。お気に入り、弘田三枝子、伊東ゆかり、森山加代子のお姉さま方です。なおこの頃は、同じ曲を何人もの歌手が競作でカバーしていますので、代表的なカバー歌手を書きましたことご了承下さい。

◆弘田三枝子（昭和22年生）は「子供ちゃ（当時のまま）ないの」や“魚（いわ）、魚、魚、… 魚、家（い）、家、家…”で始まる「悲しき片想い」（いずれも原曲ヘレン・シャピロ）「ヴァケーション」「思い出の冬休み」（いずれも原曲コ

ニー・フランシス) “ビーマイベイビー” 「私のベイビー」 (原曲ロネッツ) “青い月の光を浴びながら…” 「砂に消えた涙」 (原曲ミーナ) 「夢みるシャンソン人形」 (原曲フランス・ギャル) など多くのヒット曲を歌い、元気いっぱいの歌唱力が好きでした。“V-A-C-A-T-I-O-N 楽しいな…” の歌い出しは子供達の間で大流行し、誰でも知っている英単語になりましたね。

◆伊東ゆかり (昭和 22 年生) も「カラーに口紅」 “夜遅くに帰ると、ママからお目だま…” の「大人になりたい」 (いずれも原曲コニー・フランシス) 「ロコモーション」 (原曲リトル・エヴァ) 「恋の売り込み」 (原曲エディ・ホッジス) を歌っていました。” Too Many Rules” を「大人になりたい」と訳して曲名にしたのは名訳だと思います。

◆森山加代子 (昭和 17 年生) は “ティンタレーラディ・ルーナ” で始まる「月影のナポリ」 (原曲ミーナ) 「ポケット・トランジスター」 (原曲アルマ・コーガン) “コラソン・デメロン・デメロン…” で始まる「メロンの気持ち」 (原曲ローズマリー・クルーニー＝ジョージ・クルーニーの伯母) などテンポの良い曲が多かったですが、一番記憶にあるのは中村八大作曲の「じんじろげ」でしょうか。“ホーレツラッパノ ツーレツ” や “ヒッカリコマタキ ワーイワイ” など意味不明の歌詞を子供達は面白がって歌っていました。

◆他の女性歌手では田代みどり (昭和 23 年生) が「パイナップル・プリンセス」 (原曲アネット・ファニセロ) を、中尾ミエ (昭和 21 年生) が “プリリル ベイビー ハイ、ハイ…” の「可愛いベイビー」 (原曲コニー・フランシス) を、ザ・ピーナッツ (昭和 16 年生) が「レモンのキス」 (原曲ナンシー・シナトラ) を、九重佑三子 (昭和 21 年生) が「シェリー」 (原曲フォー・シーズンズ) を、西田佐知子 (昭和 14 年生) が “昔、アラブの偉いお坊さんが…” で始まる「コーヒールンバ」 (原曲ウーゴ・ブランコ) を歌い、男性歌手では飯田久彦 (昭和 16 年生) が「ルイジアナ・ママ」 (原曲ジーン・ピットニー) “どうしてあの娘と逢えないのだろ…” の「悲しき街角」 (原曲デル・シャノン) 「電話でキス」 (原曲ポール・アンカ) “君もコーヒー家(仁)、家、家、家、僕もコーヒー魚(ウ)、魚、魚、魚…” の「コーヒーデート」 (原曲エディ・ホッジス) を、平尾昌晃 (昭和 12 年生) が「ダイアナ」 (原曲ポール・アンカ) “チューチュートレイン…” で始まる「恋の片道切符」 (原曲ニール・セダカ) 「監獄ロック」 (原曲エルビス・プレスリー) を、坂本九 (昭和 16 年生) が「カレンダー・ガール」 (原曲ニール・セダカ) 「ステキなタイミング」 (原曲ジミー・ジョーンズ) を歌ってヒットさせました。

いかがでしたか。懐かしんで頂けたでしょうか。次回は本場アメリカのオールディーズに眼を向けましょう。

<一口メモ>

私は 1950 年（昭和 25 年）生まれなので、オールディーズの歌手は殆どが年上ですが、意外な人が同年配だったりします。ヴァイタリティ溢れる歌声のビリー・ジョエル（1949 年 5 月生）、存命なら、どんな歌声を聞かせてくれたかと残念なカレン・カーペンター（1950 年 3 月生）、浮き浮きする歌声のステイビー・ワンダー（1950 年 5 月生）。イギリスの歌姫メアリー・ホプキン（1950 年 5 月生）。歌手ではありませんがリチャード・ギア（1949 年 8 月生）も同年配です。彼もミュージカル映画「シカゴ」（2003 年）では歌って踊っていましたね。